（別紙４－１）（ユニット２）

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0190502682		
法人名	株式会社　サンダイス菊水元町		
事業所名	グループホーム　サンダイス菊水元町		
所在地	札幌市白石区菊水元町8条1丁目14番8号		
自己評価作成日	令和4年4月10日	評価結果市町村受理日	令和4年5月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0190502682-00&ServiceCd=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	合同会社　mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	令和4年5月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・昨年度に、身体拘束委員会を設置し、各ユニットから1名づつ委員を決めて実行しだしました。
・地域との関わりを取る為にも町内の行事には参加し町内との連携を取っています、又、散歩中に近所の方とお会いした際はこちらの方から挨拶をし、顔なじみの関係を作っています。
・コロナ禍の中で.大勢の人の集まる中には行けないので、ハイエースでドライブをしながら少しでも　社会との繋がりを持てるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

Ⅴ　サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

	項　目	取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる（参考項目：23、24、25）		1　ほぼ全ての利用者の
		○	2　利用者の2/3くらいの
			3　利用者の1/3くらいの
			4　ほとんどつかんでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18、38）	○	1　毎日ある
			2　数日に1回程度ある
			3　たまにある
			4　ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1　ほぼ全ての利用者が
			2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36、37）	○	1　ほぼ全ての利用者が
			2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1　ほぼ全ての利用者が
			2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
		○	4　ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30、31）	○	1　ほぼ全ての利用者が
			2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1　ほぼ全ての利用者が
			2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない

	項　目	取組の成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9、10、19）	○	1　ほぼ全ての家族と
			2　家族の2/3くらいと
			3　家族の1/3くらいと
			4　ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2、20）		1　ほぼ毎日のように
			2　数日に1回程度
			3　たまに
		○	4　ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1　大いに増えている
		○	2　少しずつ増えている
			3　あまり増えていない
			4　全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11、12）		1　ほぼ全ての職員が
		○	2　職員の2/3くらいが
			3　職員の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1　ほぼ全ての利用者が
		○	2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1　ほぼ全ての家族等が
		○	2　家族等の2/3くらいが
			3　家族等の1/3くらいが
			4　ほとんどできていない

（別紙４－１）（ユニット２）

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が把握できる様、利用するエレベーター横・ユニットの入り口に掲示している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に交流を持つことが出来ていないが隣接している住宅住民の方々と顔見知りの間がらとなれるよう何か困ったことがあれば相談できるよう日ごろから挨拶等をして、交流を図れるようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	カンファレンスなどで認知症及び認知症ケアについての話し合いを積極的に行っていたが、コロナ渦にて行えていないのが現状である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催の際は利用状況、取り組み、入居者様の日常の様子を報告し、意見を求めている。又出た意見をサービス向上に活かすよう努めている。また、常日頃から情報を共有し、変化に対応している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や事業所からなる情報、入退居者や事故については管理者を通じ必ず報告して指示等いただいている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わない様プリント等にてGH独自の行為・行動の意識づけを行っている。玄関の施錠はもちろん言葉の掛け方にも日々気を付けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束をしない為の研修、虐待防止法について研修をしている。普段から身体拘束や虐待はしないという意識を持ちお互いに注意出来る環境を作っている。またストレスをため込まないようコミュニケーションをとっている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度については管理者に一任しているが今後は職員も学ぶ機会を設けていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始前に管理者を通じ利用契約書や重要事項説明書の十分な説明を行っている。利用開始にあたり不安・疑問等お聞きし、回答の上ご理解をいただいている。ご本人にも利用前に来て頂き、説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様やご利用者様には都度ご意見を伺っている。面会時の会話の中からご意見を伺うこともあり、報告、改善に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスにて職員の意見や提案を聞き確認している。又意見を言いやすい話しやすい環境、雰囲気作りを意識し、大切にしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働環境の改善に日々取り組み、自己評価や人事考課、面談により個々のレベルアップにつながっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用職員に対しては基礎的な内容、中途であればスキルを見極めた上で同行を実地し、受ける側、伝える側両者の向上につなげている。外部研修は今年度はコロナウィルスにより実現できていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	管理者通じネットワークづくりを行いサービスの質を向上させていく取組みを行っていたが、コロナ禍にて行えていない。		
Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の目線に立ち、気持ちに寄り添い、話しやすい環境作りに努めている。要望、困り事、不安なことをお聞きし安心して生活できるよう支援に務めている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前より家族の困り事や不安なことなどについて少しでも話しやすい言葉掛けや説明にて環境を作り安心して頂ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始する前にご本人、ご家族の両方から話をお聞きし、ご本人が今一番必要と思われる支援は何かに極め提案し、支援するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に職員は利用者主体で関わり又、日常生活では暮らしを共にする者同士として一緒に考え楽しく安心し過ごせるよう互いに支えあう気持ちを大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族はご本人にとって一番大切な存在でありいつでも面会・連絡がとれるよう様働きかけている。、生活の様子を知って頂くため「ひだまり便り」を郵送したり、なるべく受診に付き添って頂き、共にご本人を支える関係を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出、外泊など、特別な事情が無い限りは制限していない。コロナウィルスが終息した際には入居前に関わりのあった馴染みの方や家族が来訪できるよう催しの企画を検討する。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自然とご利用者同士が関わり関係性が作られている。お一人お一人の個性を大切にし入居者様同士が話しやすい環境、居場所作りを行っている。必要であればさり気なく間にはいり配慮している。トラブルがあれば職員間で情報共有している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなった利用者様のご家族様と外出先でお会いした際には声を掛けて下さったり、こちらから声をおかけしたり今までの関係性を大切にしている。		
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートを活用しご本人、ご家族の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。ご本人の言葉や思いを大切にし少しでもニーズに応えられるように検討・対応している。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートやアセスメントシートを活用し生活歴や情報収集している。何気ない話の中で新たな情報を収集できるようコミュニケーションをとり、これからの生活に活かせるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活記録で心身状態や様子、職員の気付きも残し、職員が記録を出勤したら必ず目を通し現状況を確認し把握出来るようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスでモニタリングを行い職員間でいろんな角度からの意見を話し合う様にしている。計画作成担当者が説明の際ご本人に一つ一つお聞きしながらライフサポートプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録に残し他職員が見て分かる様に記載している。すぐに対応したほうが良いと思う場合はミニカンファレンスを行い対応し経過の記録も残している。記録を確認し、話し合いのうえでプランを見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お一人お一人のニーズを大切にし、デイケアなど利用できるよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年はコロナウィルスで実現できていないが今後は少グループでスーパーや公園へ出かけたりできるよう検討している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	管理者を通じてかかりつけ医と今までの関係性を大切にし、又連携していく為、情報を提供出来るよう事前に文書にしてお渡しし、速やかに対応して頂けるようにしている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回訪問看護が介入しており入居者様の変化や状況などを伝え相談、指示を得ている。又適切に受診出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はホーム長を通じて病院関係者、医師、看護師との情報交換をこまめに行い入院中、ご本人、ご家族共に不安なく治療できるようしている。又、一日も早く退院出来るように退院後の生活に注意する点なども情報を得る様にしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	終末期に関しては入居時に意向を伺っている・ご家族にも、どのように考えているのかなるべくお聞きするようにしている。ここで出来ることもお伝えし医師と看護師と連携して支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故が発生した時に備えマニュアルを作成して全職員が対応できる様に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内の防火訓練・避難場所の確認をし、職員全体にの周知を行いマニュアルや連絡網を作成し体制を整えている。		
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員はご利用者の人格を尊重し誇りや自尊心を傷つけないよう言葉掛けを心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中でご本人の思いや希望を受け止められるよう話しやすい環境作りと自己決定しやすいような会話方法で働きかけ、指導を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	職員の都合でなくご利用者主体であることを常に意識している。共同で生活しているがお一人お一人生活歴や習慣もニーズも違う為、その方のペースを大切にし個別の支援も大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を取り入れ清潔感のある身だしなみを支援している。本人が決定できない場合はご家族から以前の様子や好みの物を伺いし、おしゃれやその人らしく生活できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しくなるように声掛けしながら提供している。、一人一人に合わせた盛り付けや食べやすい形状を考慮して提供している。片付けもその方の得意なこと出来る力を大切にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の献立やおやつ、飲み物の種類を記録している。旬の物やなるべく食材の種類を多くバランスの良いものを心がけ個々の食事量や水分摂取量も把握、記録している。食事形態もお一人お一人に合せ提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを行なっており、就寝時は義歯の洗浄をおこなっている。自分で出来る方は声かけ・見守り行い、自分で出来ない方は、職員介助にてさせていただき、個々に合せて援助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日々の関わりから排泄パターンを把握しトイレで排泄ができるよう関わっている。又職員間で情報の共有に努め支援出来る様にしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や食物繊維の多い物やヨーグルトや体操・運動など個々に合せ支援している。排泄について記録を残し快適に排便出来る様にしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	週二回ゆっくり入って頂ける様、支援に努めている。入浴の際は話をしたり歌を歌ったり楽しく体調を確認しながら、気持ちよく入って頂ける様支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後お部屋で休まれる方やリビングのソファで休まれる方もおられる。眠くなるまでテレビを見ておられたり、個々の習慣を大切にしている。夜眠れない方には眠気がみられるまで一緒に話すなど安心して休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人用のファイルには薬名、効能、用量、用法副作用について記載してあり職員が把握しておいる。毎回配薬の際確認しながら対応している。薬が変わった特などはその後の様子を観察し記録している。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人の生活歴や得意なことや自分の持っている力を活かして頂けるようその方のリズムを大切にしその時々、個々に合わせた支援を提供している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望を出来る限り聞き、行きたい時に行きたいところに出かけられる様に努めている。又言いやすい環境作りも意識しているが、なかなか外出は実現できていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今年はコロナウィルスで外出は実現できていないが今後は少グループで出かけたり、好みの物を買いにでかけご本人が支払いできるよう検討している。施設内の自動販売機では好きな飲み物を購入していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも取り次げるよう工夫している。一人でかけることは難しい為職員が変わって連絡をすることもある。手紙は現在やり取りはできていないがフロア便りを作成し隔月で発送行いご利用者の様子を伝えている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下、玄関からは季節を感じられる様なしつらえを考え工夫している。テーブルにも時々花を飾ったりして居心地のよく過ごせる空間となるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内にはイスやソファを置き、お気に入りの場所としてゆったりと過ごせる様な工夫をしている。畳スペースもあり気のあった方たちと話したり休むことも出来る。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはなるべく使い慣れた馴染みの家具、思い出の品やご家族の写真を飾ったりして安心・安全に過ごせるよう環境作りをおこなっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで、廊下には手すりが設置してある。トイレなどは文字を大きく表示したりして分かりやすく、利用出来るように工夫している。		